

施策No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	生活環境課	主管課長名	小島 幸徳
5-7	施策名	廃棄物の抑制と適切な処理	関係課	なし		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
	ごみの発生が抑制され、適正な処理が行われている。	・市民 ・市内で発生した廃棄物(ごみ・し尿)	①桜川市人口	人	見込値	37,653	37,269	36,885	36,500	35,897
実績値					37,653					
②市内のごみ総排出量(事業所分を除く)			t	見込値	11,722	12,064	12,064	12,064	12,064	
				実績値	13,173					
③し尿処理量			t	見込値	14,154	14,058	13,964	13,868	13,772	
				実績値	13,434					
施策の意図		成果指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
			①1人1日当たりのごみ排出量	g	目標値	714.0	639.9	673.2	706.5	740.0
					実績値	673.5				
			②資源物比率(資源ごみ÷ごみ総排出量)	%	目標値	7.1	6.8	7.9	9.0	10.0
	実績値				5.9					
	③可燃ごみの搬入量		t	目標値	8,046.0	8,400.0	8,266.7	8,133.4	8,000.0	
				実績値	8,884.5					
	④不燃ごみの搬入量		t	目標値	389	389	376	363	350	
				実績値	366.2					
	⑤資源ごみの収集量		t	目標値	822	826	867	908	950	
				実績値	772					
成果指標設定の考え方	○発生が抑制されるは、①「市民1人当たりのごみ排出量」が減れば、ゴミの減量化につながると考えた。 ○適正に処理がされるについては、②資源物比率、③④可燃・不燃ごみの搬入量、⑤資源ごみの収集量で把握する。									
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の桜川市人口は毎年10月1日現在の常住人口 ○対象の「市内のごみ総排出量」は、事業所から排出されたもの(事業系一般廃棄物)は除いている。 ○ごみの発生を抑制していく意図の経年変化を見るために、成果指標を1人1日当たりのごみの排出量(市内のごみ総排出量/常住人口)とした。 ○適正処理については、資源物比率を見ることで把握する。 ○可燃、不燃ごみの搬入量は環境センターへの搬入量									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1)現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)			
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1日当たりのごみ排出量は、令和3年度が666g、令和4年度は673.5gで、前年度と比べ7g増加し成果が低下している。</li> <li>・資源物比率は、令和3年度が8.9%、令和4年度が5.9%と3.0ポイント減少しており成果が低下している。</li> <li>・可燃ごみ搬入量は、令和3年度が8,046t、令和4年度は8,884.5tで、前年度と比べ838.5t増加しており成果が低下している。</li> <li>・不燃ごみ搬入量は、令和4年度が462t、令和4年度は366.2tで、前年度と比べ95.8t減少しており成果が向上している。</li> <li>・資源ごみの収集量は、令和4年度が832t、令和4年度が772tと、60t減少しており成果が低下している。</li> </ul> 一般のごみと資源ごみとの分別が徹底されていないことが、可燃ごみ搬入量の増加、資源ごみの収集量と資源物比率の減少した要因と思われる。		
2)成果目標の達成状況			
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1日当たりのごみ排出量は、令和4年度の目標値714gに対し、673.5gで40.5g目標値を上回った。</li> <li>・資源物比率(資源ごみ÷ごみ総排出量)は、令和4年度の目標値7.1%に対し5.9%で、1.3ポイント目標値を下回った。</li> <li>・可燃ごみ搬入量は、令和4年度の目標値8,046tに対し、8,884.5tで838.5tで目標値を下回った。</li> <li>・不燃ごみ搬入量は、令和4年度の目標値389tに対し、366.2tで22.8t目標値を上回った。</li> <li>・資源ごみの収集量は、令和4年度の目標値882tに対し、772tで110tで目標値を下回った。</li> </ul> 成果目標の達成状況については、1人1日当たりのごみ排出量、不燃ごみ搬入量で目標値を上回ったが、他3つの項目で目標値を下回ったことが重視されることから「一部の成果指標で目標値を下回った」と評価した。		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・粗大ごみ処理処分事業について、新型コロナウイルス感染症の収束傾向に伴い、全体的にごみ排出量が増加したと思われる。</li> <li>・資源ごみ分別収集事業について、市民に向けた一般のごみと資源ごみとの分別周知が進んでいないことが原因と考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源ごみ収集の増加させるためには、不燃物と可燃物、ごみの減量化を合わせて考え、解りやすいごみの出し方カレンダーを刷新し、家庭での分別取組対策が必要である。また、カレンダーの多言語化も行き、外国人に向けた周知を推進していく。</li> <li>・広報やイベント等を通じて積極的に啓発を行い、ごみ減量化を促すとともに、リサイクル製品を細かに分別する取組を展開する。</li> </ul>